

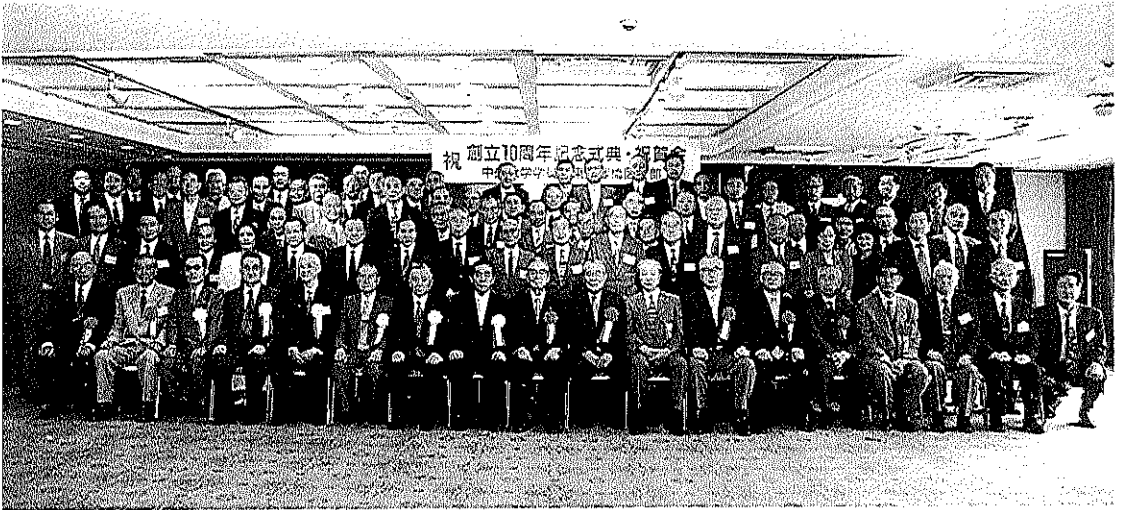


白門板橋

1998. 8. 15 VOL.10

編集 中央大学学員会 東京板橋区支部

発行 〒175-0082 板橋区高島平2-23-3-101 TEL 03-3975-3300



■支部長あいさつ 節目の年を飛躍の年に

支部長 小日向 孝介



本日は、顧問及び相談役の方々を来賓にお迎えし、多数の会員の皆様に出席をいただき、第十回支部総会を開催できますことを、大変嬉しく思います。厚くお礼申し上げます。

さて、皆様ご案内のとうり日本経済は長期停滞が続き、新聞その他の報道では実に二十三年ぶりの実質低成長ということで、衝撃を受けました。政府の抜本的な対策で一日も早い景気の回復を期待したいものです。このような経済環境のもとで、我が中央大学も就学人口の少子化や伝統の国家試験対策等ももろの問題を抱えています。この機会に学校側から親しく学内の現状と今後の教育方針についても、総合的な視野に立ったご高見を拝聴することができれば幸いと存じます。

次に支部活動について、この一年を振り返ってみますと、会員の減少防止に配慮しながら、支部創立十周年記念事業の企画と準備を中心に進めて参りましたが、多くの皆様のご協力で概ね目標どおり終了することができました。今年度は記念事業の残務整理を速やかに行ない若干停滞しておりますが、会員増強運動とサークル活動の振興を図っていきたいと思います。また専門分野の会員のお力を借りて、支部規約の見直しと整備を進めて参る所存です。

最後に会員の人事動向について、ご報告申し上げます。石塚輝雄顧問が今年三月、地方行政並びに環境都市づくりにおける実証的研究の成果が認められ、米・加州ニューポート、アジア・パシフィック大学より名誉博士号の称号が授与されました。関上裕次常任幹事が、永年税務行政に貢献した功績で平成十年度黄綬褒章を受章されました。森英正副支部長及び小野田元会員が中央大学学員会協議員に推薦されており、各位のますますのご活躍をご期待申し上げます。

支部二ニュース

高島平ブロックと 赤塚ブロックのお世話

去る四月五日(日)、地元・板橋の赤塚城址で「史跡散歩とお花見」を行なった。

下赤塚からのAコースの組と高島平からのBコースが板橋区美術館前で十一時三十分合流。

高嶋秋帆が訓練に使った大砲があることで有名な松月院、東京大仏で有名になった乗蓮寺などを郷土史に詳しい先輩の説明に耳を傾けながら、郷土への想いを新たに、既に場所取りをすませた会場に勢揃いした。飲み物やつまみの品まで会場に搬入する、手作りぶりに集結した一同は感激しきり。花見の会場となった旧赤塚城址の小高い丘には、環状にたくさんの桜の木があり、その中の大きな桜の木の下に陣取った我ら白門板橋支部は、田永顧問の音頭で乾杯。

直射日光を避けた桜の木の下に

は、キャンプ用のコンロを持ち込んで、おでんを煮たり、当日朝に焼いたという焼き鳥も出されるなど、まさに仲間の友情が伝わる手作り料理に舌鼓を打ちながらの花見の宴は頂点に達しました。

一昨年の午久まで遠出した観桜会に続いて、昨年は隅田川畔を屋形船で観桜しましたが、地元の板橋区にもすばらしい花見の会場があり、「灯台元暗し」とはこのことだと、総員が再認識したものでした。



写真は「赤塚城址公園」で写す

郷土の歴史を訪ね歩いた一同に快い疲労と、青空の下を満開の桜に心地よい酔いがまわって、和気藹々の楽しい集いでした。

(中三川記)

秋の旅行は 天城・湯方島に決定

恒例の秋の旅行は、天城・湯方島温泉に決まりました。

場所柄、新鮮な山の幸を存分に賞味できると思います。日程等は次のとおりです。今からカレンダーに二重丸をつけて、日程を確保し、一人でも多くの方が参加されますようお願い致します。

詳細は追ってご案内致します。

日時：十一月二十八日～二十九日

会費：二万七千五百円

旅行地：天城・湯方島温泉(2)

お問い合わせ先

岡田利彦

☎〇三―三九五六一五六五九

三宅正代

☎〇三―三五七九一八七八〇

石塚顧問が米・大学から名誉博士号を授与される



当支部の顧問
・石塚輝雄(昭
28年法卒)氏
が、去る三月六

日(金)、米・加州ニューポートアジアバシフィック大学から名誉博士号の称号が授与されました。これは地方行政並びに環境都市づくりにおける実証的研究の成果が認められたものです。

伝達式は三月六日(金)に行われました。

関上裕次氏が
黄綬褒章を受章



恒例の春の叙
勲(平成十年)
で、支部会員の
関上裕次(昭26

法卒・常任幹事)氏が、永年税務行政に尽力された功績により、黄綬褒章を受章されました。

おめでとうございました。

第十回定時総会を開く

記念式典・記念祝賀会も盛大に繰り広げる——

平成十年六月二十日(土)、豊島区西池袋一丁目の東武百貨店内にある東武バンケットホールを会場に、午後四時から第十回・定時支部総会が開かれた。当日は梅雨の晴れ間の蒸し暑い日で、八十五名の会員が出席して定刻に開会さ

祝 創立10周年記念式典・祝賀会 中央文化学園会東京板橋区支部



記念式典で祝辞を述べる内海理事長

感謝状贈呈、記念撮影を経て記念講演に移り、学員会から招いた野崎靖博氏(日刊スポーツ新聞社)の「プロ野球ペナントレースの行方」と題する楽しい話に耳を傾けた。祝賀会では、石塚顧問音頭で乾杯して懇親会に移り、来賓を囲んで和気あいあいに親睦を深めた。宴たけなわになったところで、浅草千束・一声会の皆さんが支部旗を先頭に「木遣り歌」を披露。演壇中央に勢揃いした一行を背に竹内相談役の音頭で恒例になった母校校歌を合唱して、中締めをした。

(池田記)

■議事内容は次のとおりです。

第一号議案

- | | | |
|----------------------------|-------|--------------------|
| 平成九年度事業報告(九年四月一日〜十年三月三十一日) | 七月二日 | 十年史座談会 |
| (片桐事務局長から) | | (区立文化会館) 11名 |
| ▼平成九年 | 七月二日 | 二十三区支部連絡会 |
| 四月二日 屋形船で花見会35名 | 七月二日 | (上野精養軒) 2名 |
| 目黒、牛久支部と合同 | 八月一日 | 『白門板橋』第10号 |
| 四月一九日 囲碁部定例会 12名 | 八月一日 | 発行 |
| (西池囲碁サロン) | 九月二日 | 渋谷区支部設立総会 |
| 以下毎月第三土曜日 | 十月二日 | (駿河台記念館) 2名 |
| 四月二日 十年史編集会議5名 | 十月二日 | 常任幹事会兼十周年記念事業実行委員会 |
| (池袋・平山事務所) | 十一月二日 | (区立産文ホール) |
| 以下毎月開き、12回 | 十一月二日 | 幹事会 |
| 四月二五日 会計監査会及び役員会 | 十一月二日 | (区立産文ホール) |
| 会 | 十一月二日 | 秋の旅行会 |
| (支部事務所) | 十一月二日 | (バスで伊豆・長岡温泉へ) |
| 五月九日 幹事会 35名 | | |
| (区立産文ホール) | | |
| 六月一六日 役員会 | | |
| (支部事務所) | | |
| 六月二日 目黒区支部総会3名 | ▼平成十年 | |
| (エビスガーデン) | 一月一七日 | 正副ブロック長会議 |
| 六月二八日 定時総会及び懇親会 | 一月二三日 | 新年会 |
| (区立文化会館) 75名 | 一月二三日 | (区立文化会館) 56名 |
| 七月二日 十周年記念事業実務担当者会議 | 三月一七日 | ゴルフコンペ |
| (支部事務所) | 三月一七日 | (森林公園ゴルフ倶楽部) |
| 13名 | | 16名 |

第2号議案

平成9年度・収支決算報告書
(自平成9年4月1日～至平成10年3月31日)

【収入の部】 (単位:円)

科目	予算額	決算額	増減額	備考
年会費	600,000	636,000	36,000	3,000 × 212名
総会会費	480,000	450,000	▲ 30,000	5,000 × 75名
旅行会費	810,000	819,000	9,000	27,000 × 29名 寄付金 5,000
新年会会費	480,000	392,000	▲ 88,000	7,000 × 56名
常任幹事会費	50,000	44,000	▲ 6,000	2,000 × 18名 寄付金 5,000
幹事会費	160,000	143,000	▲ 17,000	2,000 × 35名 2,000 × 34名 寄付金 5,000
寄付金	50,000	121,000	71,000	総会、新年会
受取利息	5,000	846	▲ 4,154	
前年度繰越金	1,256,244	1,256,244	0	
計	3,891,244	3,862,090	▲ 29,154	

【支出の部】 (単位:円)

科目	予算額	決算額	増減額	備考
総会費	480,000	444,642	▲ 35,358	文化会館0.6.23
旅行会費	810,000	803,882	▲ 6,118	伊豆長岡9.11.29-30
新年会費	480,000	388,235	▲ 91,765	文化会館10.1.22
常任幹事会費	50,000	42,117	▲ 7,883	庶文→9.10.27
幹事会費	160,000	149,325	▲ 10,675	庶文→9.6.9 庶文→9.11.21
広報作成費	120,000	136,500	16,500	会報『白門板橋』
印刷費	90,000	47,700	▲ 42,300	
通信費	180,000	165,320	▲ 14,680	
会費	50,000	25,504	▲ 24,496	
会費会場費	80,000	32,620	▲ 47,380	
事務所費	60,000	60,000	0	
事務用品費	30,000	28,546	▲ 1,454	
庶務交際費	60,000	52,000	8,000	香典、他支部総会
同好会補助費	60,000	37,000	▲ 23,000	囲碁部、将棋部
雑費	10,000	9,778	▲ 222	
10周年記念事業準備費	200,000	200,000	0	
次年度繰越金	991,244	1,237,921	246,677	当期欠損金 418,323
計	3,891,244	3,862,090	▲ 29,154	

貸借対照表

中央大学学員会東京板橋支部 (平成10年3月31日現在) (単位:円)

資産の部			負債・資本の部		
科目	内訳	金額	科目	内訳	金額
現金	手許右高	8,829	前受金	10年度会費 3,000 × 8名	24,000
郵便振替口座	(3-568928)	1,131,740	預り金	10周年記念事業協賛金	656,740
郵便貯金	(69516001)	757,492	預り金	10周年記念誌 賛助広告代	74,400
郵便定期貯金	(3728043)	72,090	繰越剰余金		1,256,244
郵便定期貯金	(3728043)	23,000	当期欠損金		▲ 18,323
計		1,993,061	計		1,993,061

第二号議案

平成9年度・収支決算報告並びに監査報告
(自九年四月一日～至十年三月三十一日)

十一日)

坂井会計から決算報告の後、栗原監事の監査報告があり、左の原案どおり承認可決されました。

第三号議案

平成十年度・事業計画(案)

片桐事務局長の説明で、次の原

案どおり承認可決されました。

一、会員の拡充・強化

二、親睦会の開催

1 支部親睦会

四月五日、赤塚で実施済

* 観桜会は支部事業になる

2 旅行会

十一月二十八日(土)～二十九日(日)

3 新年会

平成十一年一月(会場未定)

三、同好会活動の促進

1 囲碁会

2 ゴルフ・コンペ

3 カラオケ同好会

四、十周年記念事業

1 記念式典・祝賀会

2 記念誌の発行

(「会員名簿」含む)

五、広報

・『白門板橋』年一回発行

以上の通り決算報告いたします。

平成十年四月二十四日

支部長 小日向孝介
会計 坂井健一、久米英雄

以上、支部の決算につき監査の結果、適正かつ適法に表示していると認めた。

平成十年四月二十四日

監事 栗原泰房、水野公一、岩澤忠弘

■会費納入のお願い

* 今年度の会費を未納の方はよろしくご協力下さい。

金、三〇〇〇円です。

会計係より

第4号議案

平成10年度予算(案)
(自平成10年4月1日 至平成11年3月31日)

【収入の部】 (単位:円) 【支出の部】 (単位:円)

科目	金額	備考	科目	金額	備考
年会費	660,000	3,000×220	総会費	700,000	7,000×100名
総会費	700,000	7,000×100	旅行会費	810,000	27,000×30名
旅行会費	810,000	27,000×30	親睦会費	200,000	5,000×40名
親睦会費	200,000	5,000×40	新年会費	560,000	7,000×80名
新年会費	560,000	7,000×80	常任幹事会費	50,000	2,000×25名
常任幹事会費	50,000	2,000×25	幹事会費	160,000	2,000×40名
幹事会費	160,000	2,000×40			
寄付金	50,000		広報作成費	200,000	年2回発行
受取利息	1,000		印刷費	50,000	
前年度繰越金	1,237,921		通信費	180,000	
			会議費	50,000	
			会議会場費	50,000	
			事務所費	60,000	
			事務用品費	40,000	
			慶弔交際費	60,000	支部交流、慶弔
			同好会補助	50,000	四球、北野部他
			雑費	10,000	振込手数料他
			予備費	1,198,921	
計	4,428,921		計	4,428,921	

第四号議案
平成10年度予算(案)
* 坂井会計から一部補足説明があり、左の原案のとおり賛成多数で承認可決されました。

資料8ページの新役員(案)を場内に諮ったところ、満場異議なく選任されました。

顧問 田永 嘉彦
顧問 濱 巖
相談役 石塚 輝雄
秋元 平馬
栗山 秀男
武内 崇泰
牧 吉雄
色川 昭雄

支部長 小日向孝介
副支部長 森 英正
監事 池田 巨利
同 栗原 泰房
同 岩澤 忠弘
同 久米 健二
同 久米 英雄
同 片桐 久雄
同 片桐 和久
同 杉本 道昌
同 松島 道昌
同 西崎 為二
同 関 正夫
同 清水 治男
同 水野 公一
同 関上 裕次
同 巨勢 典子
同 高橋 淳
同 千葉喜代則
同 栗原 三郎
同 大野 正浩
同 岡田 利彦
同 三宅 正代
同 中三川 幸幸
同 小宮 仁
同 立山 惟美

幹事 依田敬一郎
同 相原 志志
同 小野沢隆一
同 猪谷 実
同 佐藤 幹夫
同 鶴岡 俊雄
同 原 素之
同 大庭 登
同 高橋 勝徳
同 田中 泰治
同 細田 六郎
同 堀田 澄人
同 矢吹 尚武
同 本橋 順
同 中路 義雄
同 浦生 年公
同 大泉 喜義
同 佐藤 義
同 星野 昭
同 飯島 健市
同 榊原 弥吉
同 大森 守
同 垣内 茂
同 須田 幸男
同 中山 修
同 川口 正
同 内田 繁天
同 古澤 政和
同 松原 成光

幹事 豊田 哲夫
同 菅 東一
同 徳永 勝彦
同 竹中 義成
同 小林 武男
同 榎本 都行
同 谷本 貞雄
同 新村 一臣
同 若井 富男
同 竹田 和夫
同 宮村 徹
同 真壁 史朗
同 三田 喜一
同 川島 鑽平

◎☆印は新任を示す。

■訃報■
* 小屋 英昭氏
(昭和26年商学部卒)
病氣療養中のところを
昨年十一月六日逝去さ
れました。
・享年六十九歳。
謹んでご冥福をお祈り
申し上げます。

芦沢文学・立ち読み



作品にみる母校のこと

作家・芦沢光治良の自伝的小説『故国』の中に、フランスから帰国した芦沢光治良の家に、母校中大の理事長がわざわざ訪ねて来て「講師になってくれ」と、三顧の礼で迎えられた面白い話がある。

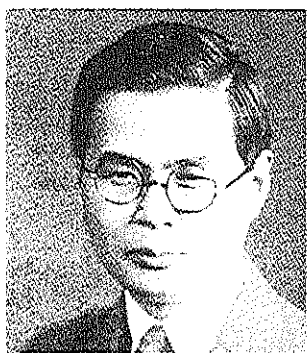
中略

その前後してT大学のS理事長が訪ねて来て、来学年から講座をもつようと、申し込んだ。

実はヨーロッパの旅へ立つ時に役所のI局長からT大学の桑田博士を紹介せられた。その時、帰朝して再び官途につかなかつたらT大学で教鞭をとってくれないかと博士から話があった。洋行する際に帝大の山崎博士を別れの挨拶のために訪ねた時にも、山崎博士から同様の申し込みを受けた。しかし、私はヨーロッパで自由な勉強をするつもりで、桑田博士にも山

崎博士にも約束しなかつたし、帰朝してからも挨拶にも出向かなかつた。

しかし、S理事長はシミアン博士(ソルボンヌ大留学時の芦沢氏の恩師)の来朝を機会に私の帰国を知って、役所のI局長や桑田・山崎両博士と相談の上訪ねたといつて、好きな講座を選んでもらいたいと熱心にすすめてきかなかつた。私は病後だからと詫びて固辞したが、その後S理事長は同じ大学のM教授とともに訪ねてきた。M教授の話では、S理事長はT大学の建設者であり経済的基礎をつくった人で、T大学の実権者であるが、暫く前に軽い脳溢血で倒れて静養中でほとんど外出しないのに、わざわざ訪ねて来たということであった。



若き日の芦沢光治良氏

S理事長はまた、T大学の経済的基礎が私立大学として最も堅実であることを、数字を挙げて縷々説明し、私に経済的な保証をするばかりでなく、将来恩給制度をも設けるから、T大学の教授グループの有力な一員となって欲しいこと、礼を尽くして話した。

生前の芦沢光治良氏を知る私が思うには、若かりし頃の中大での講義ぶりが手に取るように見えたものです。まだ、結核の療養中であつたから、迫力のある講義は期待できないものの、マイクによく通る声で理論的な講義を丁寧にされたに違いないと。

昭和四年四月から一年だけの短い縁だったが、教え子が現存している可能性は十分にあり、そんな先輩に对面できたら素晴らしい。

芦沢光治良は、生涯を現役の作家として活躍され、平成五年三月二十三日の彼岸の日に、九十六歳の天寿を全うされた。

芸術院会員、第八代日本ペンクラブ会長で従四位勲三等中綬賞を授与されている。(平山記)

中大出身大相撲力士 名店場所番付表

出島関一度目の殊勲賞
玉春日関も勝ち越す



- ▽出島(武蔵川) 西前頭4 本名・出島武春 H 8
- ▽玉春日(片男波) 西前頭10 本名・松本良一 H 6
- ▽中尾(松ヶ根) 西幕下15 本名・中尾浩規 H 7
- ▽田中(友綱) 西幕下42 本名・田中康弘 H 10
- * 武哲山(武蔵川) 東三段目 本名・栗本剛志 H 5

(栗原記)

■地名誕生から二十九年

高島平の地名は、区画整理されて昭和四十四年三月一日住居表示実施で、従来の志村西台町、徳丸町、徳丸本町、四葉町、下赤塚町

帆が幕令により、洋式の火砲実射を行なったことに因む。

高島秋帆（一七九八〜一八六六年）は江戸時代末期の砲術家で、名は茂敦、通称を四郎大夫といひ秋帆は号である。

地名の由来

■高島平■



長崎の町年寄、鉄砲方を兼任する家に生まれ、十七歳で家督を継いだ。天保十一年（一八四〇）に秋帆は

上赤塚町、三園町の各一部が高島平一丁目から九丁目に改められたのである。

清国が英国と戦って敗れた阿片戦争を知り、国防強化のために幕府に洋式砲術の採用を申し立てた。翌天保十二年、幕府に呼び出されて江戸の武州・徳丸ヶ原で歩騎兵の操練及び大砲の実射を行なった。その洋式火砲の威力は幕府の目を見張らせたという。その時に秋帆が演習の指揮をとった所が徳丸ヶ原の弁天塚（現在の新高島平駅付近）であり、宿泊したのは赤塚の松月院である。

地名の由来は、天保十二年（一八四一年）五月九日、この地域が高島秋

高島秋帆の顕彰碑が徳丸ヶ原公園に建てられており、本陣として宿泊した松月院の境内には「火技中興洋兵開祖」と彫られた記念碑が建てられている。

■陸の孤島に地下鉄走る

高島平に唯一流れている川が前谷津川で、赤塚新町二丁目を源に高島平を横断して新河岸川に合流する全長約五キロメートルで、区内に起終点をもつ河川のうち最長の川である。

現在の水路は暗渠化されて、緑道親水公園として利用され、中でも高島平一丁目の住都公園・高島平団地内は桜並木となっており、花見の名所となっています。

板橋に地下鉄が走り始めたのは昭和四十二年十二月二十七日で、都電に代わって都営地下鉄六号線が「志村」から「巣鴨」までの間を往復したのが最初で、その後昭和四十七年に「日比谷」まで延長し、その後「三田」まで開通して昭和五十三年に「三田線」の愛称が決まったのである。

現在の「高島平駅」は、当初「志村駅」でした。都営地下鉄六号線の工事により出土した土を、底地の徳丸ヶ原一帯に盛土し、整地された平の土地なので高島秋帆の名前をとって「高島平」となったのである。（池田記）



編集後記

○：梅雨期の真つ只中に、定期総会と支部創立十周年を祝う記念式典を挙げる事ができた。その間、記念事業実行委員は、手弁当で何度も打ち合わせに集まり、そして分担の役割を黙々とやり遂げた。

○：懸念された協賛金や記念誌への賛助広告も目標を上回る成果を出し、支部創立以来かつてない「結束」をみた気がする。

○：結束と同義語に「団結」がある。労働用語みたいで、今や死語になりつつあるが、本来は「お互いに結びあうこと」の意味だから、十年の節目を契機に支部会員がもっともっと胸襟を開いて、語り合いお互いに知り合うことが大事なのではないだろうか。

そして強い「絆」を結べたら素晴らしい。（平山記）